

MAKYO 芸術協会(元馬驍水墨画会)の沿革と 「MAKYO 芸術大賞展」の活動

北京で生まれた馬驍は、日中平和友好条約締結後、母の故郷の静岡へ帰国、永年に渡り低迷していた日中文化交流の架け橋にと決断。1979年に「馬驍水墨画会」を設立し、現在本部を東京に移し活動しており、2019年活動40年を迎えました。

「水墨画の普及と発展と、優秀な人材育成、文化を通じての社会貢献」を目標とし、中国で学んだ素晴らしい伝統技法をもとに、東洋美術と日本文化を融合して新時代の水墨画を作り上げるために努力して参りました。

「馬驍水墨画会」の活動は1979年～1999年の20年間、日本、中国、欧米諸国など国際画壇での名声を高め、日本国内はもとより上海美術館、ロサンゼルス、静岡県立美術館などで「日中水墨画文化交流展」を開催、国際的にも活動しておりました。

馬驍水墨画会設立20年を経て、一層芸術性の追求意欲を高めるため、1992年には、「日中水墨画交流展」を「馬驍芸術大賞展」に名称を改め、その後の20年間の歩みは、さらに師弟が精力的に活動し、水墨画の芸術性と個性を追求し続けております。

馬驍、王荻地、馬艶先生の指導により、会員たちは作品創作活動に意欲を燃やし、絶えずレベルの向上を目指しております。

画会の長年の努力と実践の成果として、新時代に即した個性ある豊かな作品が誕生しました。会員達には作家になる道を開くため、2012年から2017年まで「馬驍水墨画会作家展」を5回開催し、2013年には「現代水墨作家」作品集を出版致しました。今後も生涯学習としての水墨画を趣味から、伝統を踏まえた新しい創作作品の指導を目指す所存でございます。

新元号初年を迎え、更なる水墨画の普及と地位の向上に尽力するとともに、社会貢献を目指し国内外の皆様に参加の機会を提供するため、画会名を「MAKYO 芸術協会」と改め馬驍芸術大賞展を「MAKYO 芸術大賞展」(国際公募)第2回開催することに致しました。今後も画会の基本理念に基づき、設立当初の目標と方針は変わることなく活動してまいります。

MAKYO 芸術協会

— 推薦のことば —

馬驍水墨画会代表の馬驍作品は、我が国の水墨画界においても高い評価と注目を集め、その作品は絶えず革新し続け、神秘的で、かつ雄大な幽玄世界を表現しています。

.....

◆平山郁夫先生より「馬驍先生は、非凡な描写力と水墨の妙とを融合させて、水墨の新境地を開かれました。その素晴らしい作品群は、水墨の世界に新たな光を投げかけるものです」

.....

◆加山又造先生には「馬驍さんは、リアリスティックな具象絵画を描きながらも、非常にシュールリアリスティックで斬新な手法を澆墨に生かすなど、新しい水墨画を作り出そうと様々な努力を重ねておられます。こうした飽くことのない研究心には、大変敬服します」などお二人の先生より最高の賛辞を頂きました。